

作成日	平成30年2月14日
校長名	菅原 聡

## 1. 学校教育目標

**「心ゆたかに 未来をひらく 東小の子」**

### 【すすんで学ぶ子（知）】

- ・意欲的に学習に取り組み、考えをしっかりと表現することのできる子の育成

### 【仲よく助け合う子（情）】

- ・豊かな心を持って、高め合い仲よく助け合うことのできる子の育成

### 【ねばり強くやりとげる子（意）】

- ・目標を持ち、それに向かって粘り強くあきらめずに努力する子の育成

### 【明るく元気な子（体）】

- ・心もからだも健康で、明るく元気に活動する子の育成

## 2. 学校の経営方針

**かんだうのある学校～感動・歓働・汗動のある学校～**

- ①子ども達に「感動」を与える学校
- ②教職員が「歓働」を共有する学校
- ③地域や保護者、教職員の「汗動」に支えられた学校

## 3. 学校課題

自己有用感に裏付けられた自尊感情を持つ子どもの育成  
～一人一人が主役である東小っ子・感動・歓働・汗動のある学校を創造する～

## 4. 本年度の重点

- ①協働体制に基づく教育活動を展開し、「チーム大曲東小」（学校力）の向上を図る。
- ②道徳教育の充実を図り、学校課題の解明を展開する。
- ③経営プログラムの実践化を図り、マネジメントサイクルを確立する。
- ④特別支援教育の充実を図る。ユニバーサルデザインの授業実践の具体化を図る。
- ⑤地域・保護者との連携を図り、信頼と責任のもとで実践化を図る。

5. 自己評価・学校関係者評価の結果

評価項目		自己評価			学校関係者評価結果および意見
大項目	小項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	
1 学校経営	教育目標の具現化に向け、教職員相互の和と信頼、協働による学校経営を推進している。	□児童理解を進めるために、様々なアンケート、調査を活用しながら常に学級や学校の状態を教職員で共有することができた。	A	□小中一貫教育がスタートすることから、9年間を通した学びを構築していく必要がある。	○保護者、地域に向けて適切に情報提供をすることによって、小中一貫教育について理解を深めることができるようにしてほしい。
	教育課程の編成・整備と管理・実施・評価が充実し、社会に開かれた教育課程の編成準備がなされている。	□地域の人材を積極的に取り入れ、多様な学習の場を計画的に設定することができた。	A	□新学習指導要領の完全実施に向けた準備を行なっていく必要がある。	
2 道徳教育	道徳科の日常実践化がなされ、心を耕し、心豊かな児童を育てる取組が推進されている。	□来年度からはじまる「道徳科」に向け、授業公開等を通して研究を進めてきた。来年度に向け即応できる体制を整えることができた。	A	□道徳は教育活動全体で行われるものであることから、他教科と道徳との関係性について改善していく必要がある。	○道徳の学習を大切にしていってほしい。評価の方法が見えにくいので、保護者にも丁寧な説明する必要がある。
	いじめ・不登校予防対策指導の日常化と早期発見・早期対応の指導体制が充実している。	□アンケートによるいじめの発見率が25%あることから、年に4回アンケートを実施し早期発見に努めることができた。また、いじめを防止するための集会での「いじめ防止宣言」を通して児童への意識付けをすることができた。	A	□道徳の授業、日常の学級経営を通していじめ、問題行動をさせない学校の風土を培うことで、未然防止につなげていく必要がある。	
3 学習指導	指導方法や指導体制の工夫改善など、個に応じた指導の充実を図っている。	□少人数指導、TT指導、理科専科等工夫のある指導体制を充実させ、着実な学力向上につなげることができた。（指導方法工夫改善事業）	A	□高学年における専科等の導入をすることにより、中学校とのスムーズな接続をしていく必要がある。	○各検査の結果から、児童全体の学力の向上が見られ組織的な教育活動が見られる。今後も確かな学力の定着に向けた取組を継続してほしい。
	教職員の共通理解のもと、学力の基盤（学習準備力、学習態度、学習技能、自己学習力）となる力の育成に向けた取組が推進されている。	□教職員の研修を重ね、学校として統一した指導をすることができ、成果が見られた。	A	□中学校とあわせて9年間でどのように学力の基盤となる力を育成するかを明確にする必要がある。	
4 健康・安全指導	外遊びの奨励や体育的諸活動、食育や全校清掃等を通して、健康な生活に対する意識の高揚と取組を推進している。	□どの学級でも「全員遊び」を奨励し取り組んできた。また、ホールでのサーキットコースの設定、跳び箱等の設置を通して、日常的に意欲を持って、体力の向上を図ることができた。	A	□学校での日常的な取組はあるが、家庭と連携した体力向上の取組の必要がある。	○「朝のちょいスポ」「ホールのサーキット場」など体力向上に向けた取組が実を結んでいると思われる。今後も工夫のある取組を継続してほしい。
	廊下歩行指導、交通安全教室や登下校指導などを通して、校内外の事故防止に努める取組が推進されている。	□PTA朝の交通安全指導、青色パトロール、民生委員児童委員、健連協や町内会の方のあいさつ運動、学童指導員、地域保護者の方々等多くの目で児童を見守っていただき、安全な登下校が実現されている。また、地域交流会や、健連協の会議を通して、学校と地域の共通理解を図ることができた。	A	□自転車の乗り方について、たびたび指摘を受けている。家庭や地域と連携した取組の必要がある。	

5	特別支援教育	特別なニーズのある子どもの共通理解が図られ、個に応じた支援体制づくりが推進されている。	□児童の実態交流を通して共通理解を図ることができた。必要に応じて保護者と相談等を行うことができた。	A	□「学校経営説明会」等を通して特別支援教育についての更なる情報発信をしていく必要がある。	○特別支援学級に対する正しい理解を促していく必要を感じる。そのためにも、本校の特別支援学級の特徴でもある、オープンな雰囲気も大切にしてほしい。
6	北広島市 共通実践 課題	総合的な学習の時間「ひろば」や児童会活動を通して、環境・福祉・人権・平和について適切な取組が推進されている。	□計画的に学習を進め、適切に取組を推進することができた。	A	□中学校との接続を考え9年間での学びをつくっていく必要がある。	○学年間を意識して計画的に学習に取り組んでいる。この実践を継続してほしい。
7	幼保小の 連携	大曲スタンダードの定着等、幼保小の教育連携強化をめざした取組を推進している。	□園を訪問し園児の様子を実際に見る機会を設けたり、PTA主催の地域懇談会に参加していただいたりと密な連携を図ることができた。	A	□大曲地区の地域ぐるみの取組として地域、幼稚園、保育園にも活動の輪を広げていく必要がある。	○大曲スタンダードの取組は、小中一貫教育に先駆けて制定され、小中で連携を強めて教育をしていこうという意識が見られ成果をあげている。今後も継続した取組をお願いしたい。
8	職員研修	個々の意欲と創意を生かす研修体制が確立され、教職員としての資質を高める取組が推進されている。	□道徳の時間の授業技術の向上が見られ、石狩管内の各学校の中でも質の高い研修をすることができた。	A	□新学習指導要領の実施に向け教育環境が大きく変わる中で、更に研修する時間を確保する必要がある。	○日常的に研究や研修を深めている様子が伺える。教師の質の向上に努め、教育の目標の具現化に向け尽力していただきたい。
9	開かれた 学校	適切に情報を発信し、PTA活動の活性化、地域との連携を強化する取組が推進されている。	□ホームページ、学校だより（大地）や、学習通信（東風）を発行し、学校の様子を伝えることができた。	A	□必要な時期にわかりやすく情報発信ができるよう、さらに改善に努めていく必要がある。	○積極的に情報を発信している姿勢は評価できる。地域交流会や地域の催しへの参加を通して、さらに地域・家庭・学校が連携を深め子どもの育ちを支援する体制を強化してほしい。
10	小中一貫 教育の推 進	中学校校区のめざす子ども像の共有を通して、子どもたちの確かな学びと確かな育ちを支える体制づくりが推進されている。	□来年度の小中一貫教育のスタートに向け、地域、保護者の理解を深めながら準備を進めることができた。	A	□地域や保護者には繰り返し情報を提供し、共通理解を図りながら小中一貫教育を進めていく必要がある。	○保護者や地域の方の理解が進んでいないと感じることから、情報発信を積極的にしてほしい。

## 6. 今後の方向性についての校長の所見

9年間の学習の手引き、校内校外の生活の見直し等、小中一貫教育を意識した取組を進め、整備してきた。また、「教育を語る会」等を通して保護者地域への情報発信をしながら、共通理解を図ってきた。パワーアップタイムや放課後活動日、長期休業中の学習会、朝のちょいスポ、ホールでのサーキット場など学力や体力の向上の取組が結果として実を結んできている。頂いた意見については、真摯に受け止め、今後の教育活動に生かし、よりよい教育活動を目指していく所存です。